

横浜銀行

CONCORDIA
コンコルディア・フィナンシャルグループ

企画・発行：株式会社横浜銀行
編集協力／監修：SDGs for School（一般社団法人Think the Earth）
※横浜銀行は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

コンコルディア・フィナンシャルグループの
SDGsについてはこちら



ウェブサイト <https://www.concordia-fg.jp/>



横浜銀行

未来をかえる、未来をつくる目標 SDGs エスディー・ジーズ



みなさんは、今、住んでいる地球が10年後、20年後

どのようになっているのかを想像したことがありますか？

たとえば2050年までに、アマゾンの熱帯雨林は全体の40%が消滅する、
あるいは2048年には海から食用の魚が姿を消すという研究があります。

どうして森が消滅し、海から魚が消えてしまうのでしょうか。

森や魚がいなくなると、みなさんの生活にどんな影響があるのでしょうか。

今みなさんができることは何だと思いませんか？

この冊子を通して、みなさんに、今の世界の現実を知ってもらい、

それぞれの国や地域で過ごしている人たちが

どうしたら幸せに暮らしていけるかを一緒に考えたいと思っています。

そのヒントになるのが、2015年に世界中の人たちが話し合い、

一人ひとりが行動をおこすために決めた17個の目標SDGsです。

一人ひとりの力は小さいけれど、こどもも大人も一緒になって

力を合わせることができたら、きっと未来を変えることができるはず。

私たち横浜銀行も金融を通じて、将来みなさんの住む世界が

豊かな場所になるように取り組んでいきます。

この冊子を読んだみなさんがSDGsに興味をもって、

楽しみながら行動にうつすことで未来を変えていく

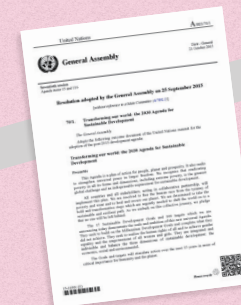
「はじめの一歩」になるきっかけになれば幸いです。

横浜銀行



SDGsは17個のゴールだけでなく
169個のターゲットと
232個の指標からできているんだ

SDGsは2015年に国連サミットですべての国連加盟国が賛成して決まった未来の約束、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の頭文字をつないだ言葉です。SDGsというと、まず上の図のような17個のゴールから紹介されることが多いはず。でも、ちょっと待って。実は、これらのゴールを支えている、いくつかのとても大切な考えがあるのです。SDGsを理解する一歩として、まずその考えを知ることから始めましょう！



なぜSDGsが
必要になったんだろう？
考えてみよう



この冊子で紹介する3つのキーワードは
すべて決議文の最初のページに書かれている

私たちのふるさと、地球

そもそもSDGsはどのように生まれたのでしょうか？ 50年ほど前の話から始めましょう。

1960年代、人類は宇宙から初めて地球を見ました。右ページの写真は1968年にアポロ8号が、月の地平線からのぼってくる地球の姿を撮影したものです。映像を通じて初めて見る美しい地球の姿に、たくさんの人が感動し、この星が自分たちの故郷だという想いが生まれ、社会を大きく変えるきっかけとなりました。たとえば1972年に「かけがえのない地球(Only One Earth)」というテーマで国連人間環境会議が開かれました。国連ができて以来、初めて環境問題をテーマに話し合った会議です。

次世代の幸せを奪わずに今の世代の幸せを考える「持続可能な開発」という考え方は1980年代に生まれました。この考えは1992年、2002年、2012年に行われた3回の地球サミットのテーマになりました。2000年には途上国の貧困をなくすために、MDGs(ミレニアム開発目標)が決まります。2012年の地球サミットでMDGsを引き継ぐ目標としてSDGsが提案され、2015年の国連サミットで採択されました。

SDGsは気候変動、貧富の差、紛争・テロなどによって、このままでは、この美しい地球を次世代に残すことができないのではないか、という強い危機感から生まれました。インターネットを通じて1千万人もの人が声を届けてつくられたことも大きな特徴です。国連や政府だけでなく、世界中の大人や子どもが参加して達成を目指す、みんなが主役のゴールなのです。

人類が宇宙から地球をみていなかったら歴史はどんなになっていたろう？



SDGsが決まるまで。そしてこれから

- 1945 第二次世界大戦終戦 国連(国際連合)が誕生
- 1968 アポロ8号が歴史的な映像「地球の出」を撮影
- 1970 初めての「アースデイ」がアメリカで開催
- 1972 国連人間環境会議 キャッチフレーズは「かけがえのない地球」
- 1987 「持続可能な開発」という考えが定義される
- 1992 第1回地球サミット@リオデジャネイロ
- 2000 国連ミレニアムサミット MDGs(ミレニアム開発目標)採択
- 2002 第2回地球サミット@ヨハネスブルク
- 2012 第3回地球サミット@リオデジャネイロ
- 2015 国連サミット SDGs(持続可能な開発目標)採択
- 2019 第1回SDGサミット開催 政治宣言「行動の10年」採択
- 2030 SDGsの目標達成年

誰も置き去りにしない

No one will be left behind

ここからはSDGsを理解するために重要な考えを3つのキーワードで紹介します。まずはSDGsが大切にしている誓いの言葉から。

SDGsの前に、貧困をなくすためにつくられたMDGs（ミレニアム開発目標）がありました。2000年につくられ、2015年までに途上国のすべての人たちが幸せになるように先進国が応援しよう！というしくみです。そして2015年には、それまでに比べて「貧しい人が半分に減った」「女の子が学校に行けるようになった」「5歳未満の子どもの死亡率が下がった」など、大きな成果をあげました。

一方、達成できなかった目標や、置き去りにされた人や地域があることもわかりました。また、時代が進むなかで新たな問題も生まれてきました。たとえば「男女間の不平等が続いている」「都市と農村の格差が広がっている」「8億人以上がまだひどく貧しい生活をしている」「アフリカの南や南アジアなどが取り残されている」「気候変動が目標達成を遅らせている」「紛争やテロに苦しんでいる人が増えている」などがあげられます。最近では、先進国でも格差が広がり、取り残される人が増えています。

だからSDGsを決めるとき、MDGsの結果をしっかりと見つめて、今度こそ「誰も置き去りにしない」で目標を達成しよう！と誓いました。MDGsは途上国を先進国が助けるしくみでしたが、SDGsは先進国と途上国が協力して「誰も置き去りにしない世界」を実現するためにつくられたのです。



もしきみが、ほかの場所で生まれたら
どんな人生だっただろう？
想像できるかな？

国内では…

フードバンクかながわ



食品からつながる助け合いの輪

統計では、世界で生産された食料のうち3分の1がすてられている一方で、9人に1人が飢えに苦しんでいるといわれています。

そこで横浜銀行では2018年から**フードバンクかながわ**に協賛しています。この活動は各家庭から寄贈されたレトルト食品などを、支援が必要な家庭や施設などへ届けるしくみです。これから先「いただきます！」という言葉があたりまえに食卓から聞こえてくる、そんな世界になることをめざします。



グローバルでは…

Zip Line



命を助ける血液をドローンで運ぶ

大ケガなどで輸血をしたくても血液がなく、車で運ぶにも悪路で時間がかかってしまう……。アフリカの国の多くでは、都市部からはなれた村がこんな状況に置かれています。

そんななか、アメリカのベンチャー企業**ジップライン社**が、アフリカ東部のルワンダに配送センターをオープン。血液パックをドローンに積んで、遠くはなれた病院へすばやく正確に運んでいます。これまで救えなかった命を最先端テクノロジーで救うこのアイデアには、世界から多くの投資が集まりました。



『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』より

私たちの世界を変革する

Transforming our world

SDGsのことに詳しい人でも案外知らないのがこの言葉です。実はSDGsが記されている決議文のタイトルが「私たちの世界を変革する」なのです。SDGsは一番大きな目的である「世界を変革する」ための行動計画としてつくられました。英語のTransformは、理科で習う「変態」という言葉と同じです。国連では、めったに使われない強い言葉だそうです。赤を白に変えたり、右から左に変えたりする表面的な変化ではなく、イモムシがチョウチョになるくらい、今とはまったくちがう世界に変えよう!という意志がこめられています。

ここで大事なことは、世界を変革するためには、今やっていることを改善し、少しずつ良くしていく、くらいのアクションでは足りないということです。このアプローチをフォアキャストイングと呼びます。それに対して、目標を達成するために、今日、何を始めなければならないか、と考えることをバックキャストイング思考といいます。1961年にアメリカのケネディ大統領が「10年以内に月に行く」と宣言し、その通りになりましたが、これこそ不可能を可能にするバックキャストイングの発想でした。

このようにSDGsを達成し世界に変革を起こすには、これまでの常識にとらわれず、たくさんの人を笑顔にする新しいアイデアが期待されています。SDGsには若い人たちの参加が歓迎されていますが、その理由は、大人がつくってきて行きづまっている今の世界を変えてゆく、新しい発想と行動力をみなさんが持っているからなのです。



きみのアイデアが変革を起こすかも！
そのために何を学べば良いだろう？

国内では…

はまPay

未来は現金が必要なくなる？

お札や硬貨などの現金(キャッシュ)を使わない(レス)で買い物や料金の支払いができるキャッシュレス決済サービス。横浜銀行もスマートフォンですぐに銀行の口座から直接支払いできるはまPayというサービスを提供しています。

デンマークでは50年前から進められていたキャッシュレス化。現在の日本での普及率は約20%とまだまだ低いですが、将来はあたりまえになっているかもしれません。



おとなりの韓国は
96%だって！

グローバルでは…

Ocean Cleanup

海のごみを風や海流の力で集める

海には、1年に少なくとも800万トンのごみが流出しています。水に漂うごみは、鳥や魚、プランクトンが食べ、死んでしまったり、やがて人の口に入ってしまうかもしれません。

この問題をなんとかしようとオランダの高校生が考えたのが、オーシャン・クリーンアップ作戦。海に大きなV字型のフェンスをうかべ、風や海流の力で海面のごみを集めます。2018年10月に最初のフェンスを設置してから今も改良を続け、海をきれいにしています。



『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』より



経済・社会・環境の調和

Economic, Social and Environmental

SDGsが画期的なのは、このキーワードが表すように、社会や環境の課題を解決するために、経済活動を上手に使うことが盛りこまれている点です。一言でいえば世界のお金の流れを変えよう！ということです。これまで社会問題や環境問題の解決のためには寄付金や税金を使うことが主流でした。ところが、SDGsの時代になって、寄付金の何百倍も流通していて、世界で年間1京円(100兆ドル)もあるといわれる投資(お金で企業や事業を応援すること)のお金も使って社会問題や環境問題を解決するビジネスを応援したり、立ち上げたりすることが奨励されるようになりました。

みなさんは、お金もうけだけを考えている会社と、社会や環境のこと、あるいは社員やその家族のことを大切に考えて経営している会社と、どちらの会社を応援したくなりますか？ 実は社会や環境のことをしっかり考えている会社の方が結果的に利益を出していることが多いということもわかってきました。今では金融機関が投資を決める判断にSDGsへの貢献度を重視するようになってきました。つまり寄付やボランティア活動だけでなく、本来の事業を通じて社会問題や環境問題解決に取り組むかどうか、その企業が未来に生き残れるかどうかを左右する時代になったのです。

みなさんのような「消費者」もお金の流れを変えることができる重要な存在です。環境や社会に配慮した製品を買う「エシカル消費」(p13)が広がってきています。投資家と消費者が変わると企業も変わらざるをえません。お金の流れが変わることで、世界は大きく変わろうとしているのです。



知っている会社やお店が
どのように環境や社会に役立っているか
調べてみよう

国内では…

サステナブル・シーフード



海の豊かさを未来へつなぐ

横浜銀行の本店食堂では、サステナブル・シーフードを使った食事を提供しています。サステナブル・シーフードとは、海の生態系や自然環境をこわさないよう、環境に配慮し適切に管理された漁業、養殖業でとられた持続可能な水産物のこと。みなさんが今食べている魚や貝などの水産物は、環境汚染や魚のとりすぎで、将来海から消えてしまうかもしれません。この先も魚を食べられるようにサステナブル・シーフードを選ぶ。それが海の豊かさを守ります。

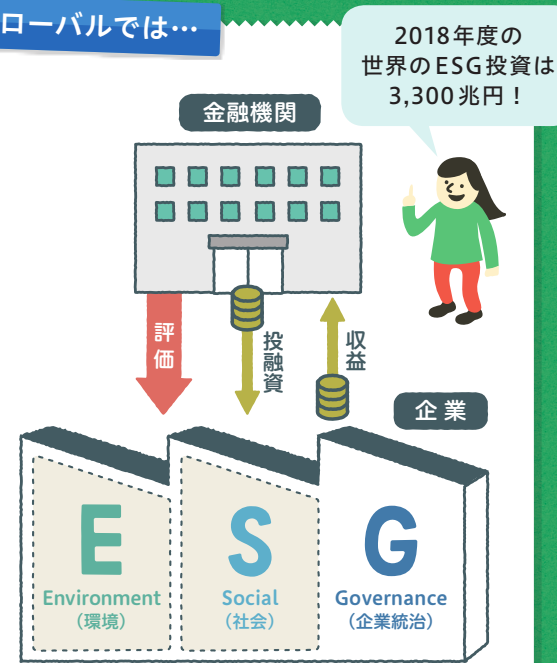


グローバルでは…

ESG投資

「いい会社」を
お金で応援する

ESG投資の「ESG」は環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の頭文字。ESG投資では、売上や利益などの業績だけでなく、その会社が社会に価値を生んでいるか、に注目します。たとえば気候変動対策に取り組んだり、女性社員が活躍したりしている会社を「いい会社」と判断し、投資で応援。そうでない会社への投資は控えます。こうして、たくさんの「いい会社」が発展すれば、持続可能な社会の実現につながっていきます。



2018年度の
世界のESG投資は
3,300兆円!

『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』より



暮らしと世界をつなぐ7-7ワークショップ^o

～今日からできるSDGsアクション!～

このワークショップは「自分の暮らしと世界の課題のつながり」を考えることで、これからの未来のために何ができるのかを見つけるためのものです。

世界を変えるアイデアと今日からできる行動を考えてみよう!



Step 1

(5分)

普段の生活を思い出して、一日の主な行動を書いてみよう。

(例 朝:ごはんを食べる、歯をみがく 昼:テレビを見る 夜:塾へ行く、お風呂に入るなど)

朝:
昼:
夜:

Step 2

(10~15分)

右ページの17個のゴールに書かれた文章を読み、Step①で書いた自分の生活と照らし合わせて、どんなことに気づきましたか?

Step 3

(20~30分)

Step②で気づいたことをグループで共有し、どうすればもっと良い世界にできるか、話し合っアイデアを考えてみよう。

みんなで考えたアイデア	
自分が考えたアイデア	

3つのキーワードを思い出してね!



Step 4

(10分)

きみが今日からできることを考えて書いてみよう。

※世界中のみんなが幸せになるために、これから行動していきたいこと、やってみたいこと。

17のゴールから世界の現状を知ろう!



世界人口の10人に1人が1日1ドル90セントという国際貧困ライン未満で暮らしている。



全世界で約8億人、世界人口でみると9人に1人が栄養不足におちいつている。



現在も毎年500万人以上の子どもが5歳の誕生日になる前に命を落としている。



世界では読み書きができない5歳以上の子どもが約7億人もいて、その3分の2が女の子だ。



世界には女性のパートナーが働くことを禁止できる国が18カ国ある。



世界人口の10人に3人が、安全に管理された飲料水を利用することができない状況にある。



世界では12億人をこえる人々が電気を使えない暮らしをしている。



日本では「働きすぎ」が問題になる一方で、途上国では「働くことができない」ことが問題となっている。



多くの途上国では道路や電力、水道といった基礎インフラが整備されていない。



世界の富裕層の子どもに比べ、途上国の子どもは5歳未満で死亡する確率が3倍も高い。



2030年までに世界の都市人口は現在の35億人から50億人に達するといわれている。人が増えると生活環境や公衆衛生にも大きな影響が出る。



世界では大量のエネルギーを消費し、資源を使って多くの食品を生産する一方で、毎日大量の食品が廃棄されている。



地球の平均気温が1度上がるごとに穀物の収穫量は約5%ずつ減少してしまう。



世界中の海の中にはマイクロプラスチックが大量に浮遊していて生態系をこわしている。



干ばつと砂漠化によって、東京都の55倍にあたる1,200万ヘクタールの土地が毎年失われている。これは1年で2,000万トンの穀物が栽培できる面積だ。



途上国では組織的犯罪も多く、窃盗や脱税は年間1兆2,600億ドルにもおよぶ。



すべての人たちが国や地域、国内、地方などで、得意分野を活かして協力することで17個の目標達成を目指している。

未来のためにどんな行動ができるかな?



「行動の10年」とエシカル消費

3つのキーワードを学び、ワークショップを体験してみて、どう感じましたか？
みなさんは未来のためにどんなことができそうですか？

今、世界中で目標達成に向けて取り組みが始まっています。2019年の秋に国連で開かれた第1回目のSDGサミットでは、すべての国が賛成して「**行動の10年**」という政治宣言が採択され、2030年に向けて今まで以上に行動を加速していこう！ということになりました。

では小学生や中学生にもできる行動にはどんなことがあるでしょうか。そのひとつは「エシカル消費」です。みなさんも、おこづかいで文房具やおやつを買ったり、大人の買い物についていったりすることもあるでしょう。エシカル消費とは、そんな毎日の買いものを、地球や地域のことを考えた行動に変えていこうという新しい買いものの考え方です。でも、何を買ったら良いかなやんでしまいますよね。そんなときにはサステナブル・ラベルを探してみましょ。持続可能な方法でつくられ、運ばれ、売られているかどうか、厳しい審査を受けた商品にマークがつけられています。p10で紹介したMSCマークや、下にあるマークはその一例です。ご家庭やスーパーマーケットにある商品のパッケージを注意深く見てみると、見つけることができると思います。見つけたマークを写真にとって簡単な解説をつけてSNSで発信するのも良いでしょう。まずは普段の生活から、お金の流れを変えることで、社会を変える動きが作りだせるかもしれません。



国際的な認証マークの例。左から国際フェアトレード認証ラベル、オーガニックの繊維製品につけられるGOTS、持続可能なパーム油の生産と利用を進めるRSPO、コーヒーなどの農作物が対象のレインフォレスト・アライアンス。ほかにもあるので探してみよう。

協力：一般社団法人日本サステナブル・ラベル協会 <https://jssl.life/>



2030年の自分と社会は
どうなっていてほしい？



もっと学びたい人へ

この冊子を読んで
SDGsをもっと学び、
行動したくなったら
アクセスしてみよう！



『未来をかえる。未来をつくる。
コンコルディア・フィナンシャルグループ×SDGs』
コンコルディア・フィナンシャルグループが取り組んでいるSDGsを紹介しているブックレットです。



国連 SDGs 公式サイト (英語)

▶ <https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>
世界全体のSDGsについての取り組みの入り口となるサイト。テキスト、動画、SNSなどさまざまなメディアを通じて最新情報が発信されています。



国連広報センター SDGs ページ

▶ https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/
SDGsのことを日本語で知りたいと思ったら、まずはここにアクセスしよう。17個のロゴがダウンロードでき、授業で使いやすい日本語の映像を集めたページもあります。



SDGs for School produced by Think the Earth

▶ <http://www.thinktheearth.net/sdgs/>

一般社団法人Think the Earthが運営する、創造的な志で持続可能な社会を目指す教師や生徒を応援するプロジェクト。国連、企業、メディア、自治体、NPO/NGO、大学等と協力しながら、教材の制作、交流の場づくり、スタディーツアーなどさまざまなプログラムを提供しています。



『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』

▶ <http://www.thinktheearth.net/sdgs/book/>
編集・発行：一般社団法人Think the Earth
監修：蟹江憲史 発売：紀伊國屋書店



『SDGs アクションブック かながわ』

『SDGs パートナーブック かながわ』

発行：神奈川県 編集：一般社団法人Think the Earth

下記サイト経由でPDF版がダウンロードできます。

▶ <http://www.thinktheearth.net/sdgs/booklet/>



※この冊子は2020年7月1日現在の情報に基づき作成しています。
書かれている内容は国連の見解を表すものではありません。